



## 【江戸時代初期の「三井家」と松坂・丹生・射和の商家との婚姻】



かつて三井松坂店と、三井家のうち松坂に住んだ人々の邸宅があった場所の一角に建つ本町のポケットパーク

皆さん、三井家をご存じですか？ 三井家は、江戸時代はじめに三井高利(1622～1694)が出て、高利が江戸で越後屋という呉服店を開いたことをきっかけに<sup>(1)</sup>、京都・大阪にも商売を拡大し、日本有数の商家となった家です。今月号では、三井家とこの地域(松坂・丹生・射和)の商家との婚姻について紹介します。

三井家と松坂のかかわりは、高利の祖父の代にはじまります。高利の祖父・三井高安は近江(現在の滋賀県)の佐々木六角氏に仕えた武士であったと伝えられ、佐々木六角氏が織田信長に滅ぼされたために、伊勢の地に逃れてきたといわれています。『松坂権輿雑集』に「…三井越後守高安と言者、江州より雲出の郷に來住し…」とあるので、現在の津市の雲出あたりに住んでいたのかもしれませんが。そして、この高安の子どもたちは、この地域の有力な商家から妻を迎えたり、商家へ嫁いだりしていくことになります。

高安の子どもたちのひとり三井高俊<sup>(2)</sup>は松坂に移り住み、丹生(多気町)の商家・永井家の殊法と結婚しました。永井家は、金融業に関係し、北畠氏や織田氏などにも出入りしていたほどの商家であったといわれています。そして、殊法は、武士の息子であった高俊よりも商売熱心で、商才もあつたことから三井の商売の祖とされる人物です。また、高俊の妹・妙休は、松坂の蔵方のひとつ鈴木家(伊豆蔵)に嫁ぎました。蔵方は、松坂のはじめの頃の有力町人で、鈴木家(伊豆蔵)・神部家(下蔵)・寺西家(雲出蔵)・小野田家(射和蔵)・鎌田家(鎌田蔵)・不明(美矢古蔵)の6つのことをいいます。なかでも、妙休の嫁いだ鈴木家(伊豆蔵)は代官を兼ねたこともある蔵方の筆頭であったといわれ、松坂でも早くから江戸に店を開いた商家でした。このように、武士の家であった三井家は、松坂へ來住して以来、この地域の有力な商家と婚姻を結んだのです。そして、高利を含む高俊の子どもたちも同じようにこの地域の有力な商家と婚姻を結んでいきます。

高利の姉のたつ、ひめ、ねねは、それぞれ射和の商家・富山家、小野田家(射和蔵)、永井家(母の実家)に嫁ぎました<sup>(3)</sup>。たつの嫁いだ富山家は鈴木家(伊豆蔵)と同じように、早くから江戸に進出した商家です。また、高利自身は、松坂の商家・中川家のかねと結婚しました。かねの実家の中川家について、『松坂権輿雑集』は「中川清右衛門法名浄安、二代清右衛門法名浄故、…(中略)…四代清三郎迄武府御為替を代々務。…」としており、かねの父・浄安の代から江戸で両替商をしていたと考えられます。

高利の姉のたつ、ひめ、ねねは、それぞれ射和の商家・富山家、小野田家(射和蔵)、永井家(母の実家)に嫁ぎました<sup>(3)</sup>。たつの嫁いだ富山家は鈴木家(伊豆蔵)と同じように、早くから江戸に進出した商家です。また、高利自身は、松坂の商家・中川家のかねと結婚しました。かねの実家の中川家について、『松坂権輿雑集』は「中川清右衛門法名浄安、二代清右衛門法名浄故、…(中略)…四代清三郎迄武府御為替を代々務。…」としており、かねの父・浄安の代から江戸で両替商をしていたと考えられます。

(1) 越後屋は、現在の百貨店方式のもととなる「現金・正札・掛け値なし」という販売方法をはじめ、大いに繁盛した。(2) 三井高利の父。松坂本町に居を構え、質屋を営むほかに酒・味噌を商っていた。ただし、商売はもっぱら商才にたけた妻・殊法が取り仕切っていたといわれる。(3) 高利は男4人・女4人の8人きょうだいの末子。兄は、高利よりも先に江戸に店を構え(釘抜三井)、成功を収めている。

近江から伊勢の地にやってきた三井家は、高俊の代になり松坂に居住し、この地域の有力な商家と次々と婚姻関係を結びました。この婚姻によって結ばれた商家は、その後、高利が江戸・京都・大阪に広く商売を展開した際に、企業面で緊密な協力を行うようになります。このようなことから、三井高利が商売で大きな成功をおさめた背景のひとつに、この地域の商家との婚姻関係があつたのかもしれない。(担当)

※今回ははにわ通信を書く際、『史料が語る 三井のあゆみ』(三井文庫編、2015年、吉川弘文館)、『三井高利』(中田易直、1959年、吉川弘文館)、『三井松坂店のすべて』(小川恒太郎、2009年、東海印刷)、『松阪市史 第9巻 史料篇 地誌(2)』(松阪市、1981年)収録の「松坂権輿雑集」などを参考にしました。また、松阪市教育委員会は平成30年3月に郷土の偉人を知るシリーズ第4冊目『三井高利』(200円/1冊)を発行しました。はにわ館などでお求めいただけます。

## 【3月 弥生】

一雨ごとに暖くなり、草木も芽吹き季節となりました。

3月には、松阪三大祭りのひとつである「初午大祭」があります。「初午大祭」は、3月最初の午の日を中心に、厄除観音として知られる岡寺山継松寺で行われ、晴れ着姿の厄年の人をはじめ遠近から多くの参詣者で賑わう祭りです。厄除け祈願とともに、露店や地域の商店に並ぶ縁起物の「猿はじき」や「ねじりおこし」を土産に買い求める参詣者も多いです。



岡寺山継松寺は、県指定文化財である「普賢延命菩薩像」(室町時代)や曾我蕭白筆「雪山童子図」(江戸時代)をはじめ、書院・鐘楼や香炉など多くの市指定文化財がある古刹です。お祭りの時だけでなく、ゆつくりと訪れてみてはいかがでしょうか。

当センターはにわ館では、冬季企画展「船形埴輪」が開催中です。常設展とともにご覧ください。また、第1ギャラリーでは、文化財センター企画展「橋本綵可 回顧展」を3月15日から24日まで行います。詳しくは裏面をごらんください。

是非、春の日差しに誘われて、文化財センターにお越しください。(所長)

## 文化財センター はにわ館 & ギャラリーの催し物予定

3月の休館日は、4日(月)、11日(月)、18日(月)、22日(金)、25日(月)、開館時間は9:00～17:00です。

【はにわ館】 入館料 100円 (18歳以下無料) \*入館は16:30まで

第1展示室 ■常設展「宝塚古墳の謎」

第2展示室 ■冬季企画展「船形埴輪 - 魂を乗せ 舟は旅立つ -」3/17(日)まで

★3/17(日)は、はにわ館の開館記念のため『入館無料』!



バーコード読み取り  
(文化財センター情報)

## 【ギャラリー】 入場無料

第3G ■AYUKA展 ～ハンディ・アート～ 3/1(金)～3/3(日) 9:30～17:00 ※最終日は16:00まで

第1G ■華道家元池坊松阪支部 花展 3/2(土)～3/3(日) 10:00～17:00 ※最終日は15:30まで

第1G ■深雪アートフラワー「花スタジオ」作品展 3/8(金)～3/10(日) 10:00～17:00 ※最終日は16:00まで

第2・3G ■南勢地区高等学校美術展2019 3/10(日)～3/17(日) 9:00～17:00 ※最終日は15:00まで

第1G ■橋本綵可回顧展 3/15(金)～3/24(日) 9:00～17:00

第1G ■森川久写真展 燈火(AKARI)7 3/29(金)～3/31(日) 9:00～17:00 ※最終日は16:00まで

## 【イベント】

文化財センター★ワークショップ「勾玉づくり」 3/9(土)、10(日) 10:00～13:00 (受付は12:30まで)

※予約不要、参加費(1セット)100円

文化財センター★ポイントラリー 3/16(土)、17(日) 9:00～16:00 ※すべてのポイントをまわるとシールがもらえます。

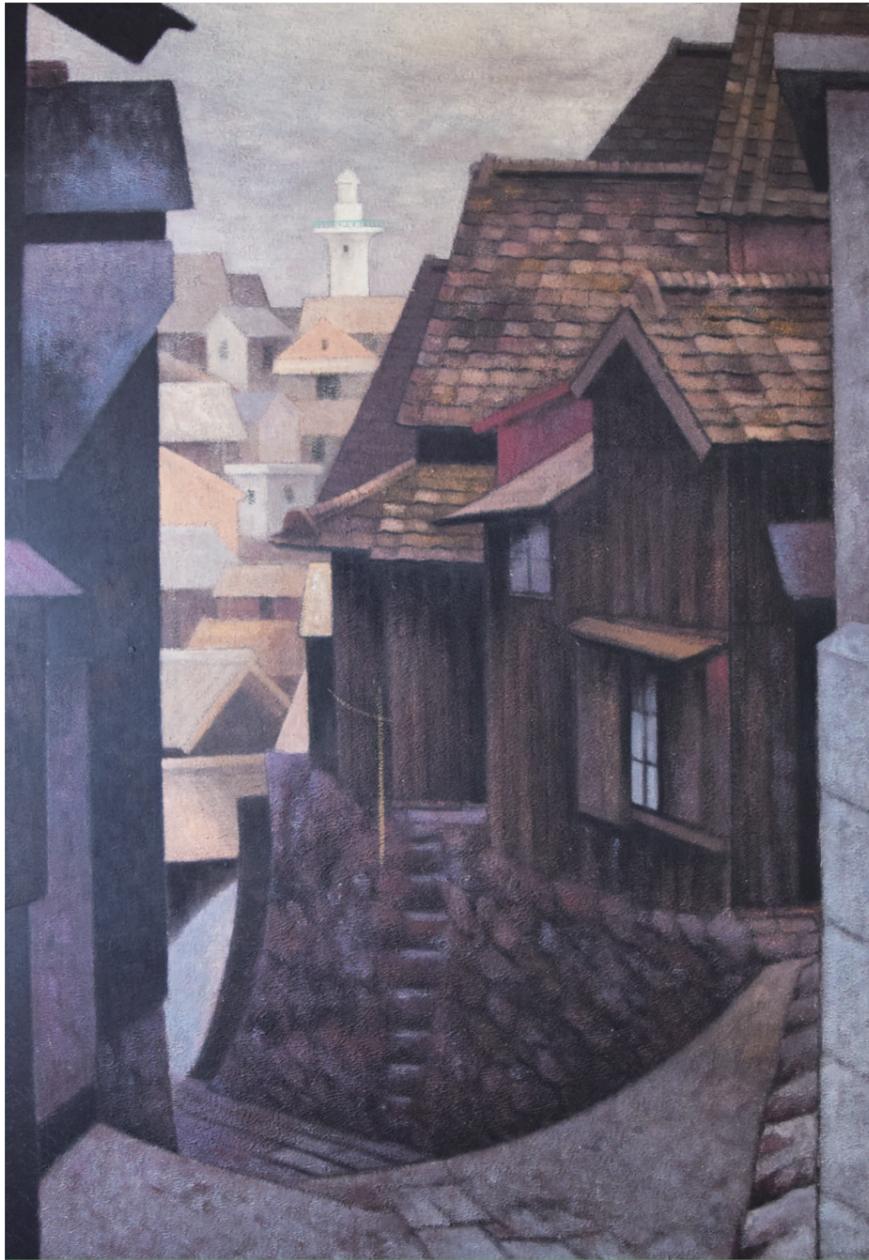
## 【平成30年度ギャラリー企画展「橋本綯可回顧展」を開催します！】

松阪市文化財センターは、平成31年3月15日（金）から24日（日）まで、平成30年度ギャラリー企画展「橋本綯可回顧展」を開催します。

橋本綯可氏は、現在の松阪市曾原町出身の日本画家です。京都市立絵画専門学校（現在の京都市立芸術大学）を卒業し、松阪出身の日本画家・宇田荻邨に師事しました。昭和23年の第1回三重県美術展で知事賞を受賞、日展には10回以上入選しています。また、松阪美術協会に創立の頃から参加したり、松阪市美

術展覧会の審査員を長く務めるなど、松阪の美術界にも大きく貢献しました。さらに、綯可氏は、現在の松阪工業高等学校、松阪市立鎌田中学校・殿町中学校で長く教壇に立っています。市民の皆さまの中には、橋本先生に美術を習った方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

今回の展覧会には、日展入選作品を含む画のほか、スケッチブックなども展示します。ぜひ、「橋本綯可回顧展」にお越しください。皆さまのご来場をお待ちしています！（担当）



Saika Hashimoto retrospective  
2019.3.15 (Fri.) - 3.24 (Sun.)

開場時間  
9:00 - 17:00

休館日  
3/18 (月)  
3/22 (金)

会場  
松阪市文化財センター  
第1ギャラリー

入場無料

〒515-0821  
松阪市外五曲町1  
TEL 0598-26-7330

平成30年度 ギャラリー企画展  
はしもと さいか かいこてん  
**橋本綯可回顧展**  
主催 松阪市文化財センター

灯台の丘(部分) 1967年

# 橋本綯可回顧展

Saika Hashimoto retrospective



松阪ゆかりの日本画家  
**橋本綯可**  
(1914-2006)

松阪は、戦後まもなく県下に先駆けるかたちで地元の作家たちの活動があり、三重の美術界を牽引してきたところです。今回の企画展では、そのような松阪ゆかりの作家のひとり、橋本綯可の作品を展示し、その画業を紹介します。

### 橋本綯可について

橋本綯可は、一志郡天白村曾原（現 松阪市曾原町）出身の日本画家です。

京都市立絵画専門学校（現 京都市立芸術大学）日本画科を卒業し、松阪出身の日本画家・宇田荻邨に師事しました。昭和23年の第1回三重県美術展で知事賞を受賞、日展には10回以上入選しています。

昭和18年に三重県立工業学校（現 三重県立松阪工業高等学校）の、同23年より松阪市内の中学校（鎌田中学校・殿町中学校）の教員となり、市内の学校で長く教壇に立ちました。

そして、松阪美術協会に創立の頃から参加したり、松阪市美術展覧会の審査員を長く務めたりするなど、松阪の美術界に大きく貢献しています。



野尻湖



八幡堀

## 松阪市文化財センター / 第1ギャラリー

Matsusaka City Cultural Properties Center / Gallery No.1

【会 期】3月15日(金)～24日(日)

【開場時間】9:00～17:00

【休 館 日】3/18(月)、22(金)

【入 場 料】無料

〒515-0821 三重県松阪市外五曲町1 TEL:0598-26-7330 FAX:0598-26-7374

ホームページは [松阪市文化財センター](#) [検索](#)

### アクセス

- JR 松阪駅から市街地循環バス「鈴の音バス」(左回り)にて「クラギ文化ホール」下車、または、三重交通バス(松阪中央病院行)にて「文化会館」下車徒歩3分、タクシー約10分
- 伊勢自動車道松阪ICより約10分 ※自動車でご来場される場合は、松阪図書館裏の駐車場(無料)をご利用ください。

